

公明

村田 耕一



人口数で転出超過を止めるための若者へのアピールは

**問** 静岡県の人口数は転出超過で全国ワースト4位、三島市も転出超過が止まらないが、若い世代に三島市に来てもらうためアピールする必要がある。奨学金返還返済補助制度や移住就業支援制度などのさらなる拡充が必要ではないか。

**答** 本市は移住先としての人気は高いが若年層の人口流出が続いているため、奨学金支援制度の要件を緩和したところ申請件数が5倍以上に増加した。そのほか、移住就業支援制度でも拡充を予定しており、若者のUターン、Iターンの促進に向けてしっかりアピールしていく。

有益な観光振興策

**問** 観光交流による観光消費額を増加させるための方策として伊豆ファン倶楽部を立ち上げたが、熱海市・函南町・三島市の枠組みから広がりが見えない中、御殿場市と伊豆の国市が観光交流協定を結んだ。三島市は今後どうするのか。

**答** 伊豆ファン倶楽部は、広域の自治体が連携して、データ活用と地域の関わりでの創出による地域活性化を目指す事業である。広域で地域の魅力を発信し、地域間連携で人の流れを作ることが重要であるので、伊豆半島の未参加市町への情報提供による関係強化を図る。

災害時の避難所の環境整備

**問** 国は避難所となる学校体育館の空調設備の設置を費用面で支援し全国の設置率18.9%から増加に向け設置ペースを2倍にするとしている。例えば、磐田市は2027年度までに全30校の設置完了を目指すとしているが、三島市の状況を伺う。

**答** 令和6年度に各中学校の空調設備整備可能性調査を実施しており、令和7年度には各小学校についても実施する予定である。学校体育館へのエアコンの設置については、関係各課と調査結果を共有しながら協議を進め、今後、計画的な設置について検討していく。

日本共産党議員団 服部 正平



過去最大の予算案における歳入の評価

**問** 市の歳入に占める自主財源の構成比は低下傾向にある。また、市民負担を求めるスポーツ施設の利用料、公共料金の引上げを示唆されていることから市財政の基礎体力が低下していると思われるが、歳入に対する評価を伺う。

**答** 個人・法人市民税の増加や、持続的発展につながるさまざまな事業の展開に伴う国県補助金については事業費に合わせ増加を見込んだ結果、過去最大になっているが、時代を見据え必要な事業を厳選する中で、見込まれる財源を最大限有効に活用し編成している。

歳出の抑制によるオンラインワンを目指す事業への影響は

**問** 物価高騰の影響を受け徹底した経費削減に努めることとし、市民の生命・財産を守るため、必要経費として各課が求めた事業経費は廃止、凍結、縮小と査定段階で大きく削られている。その影響が市民に及ぶのではないか。

**答** 各所属の要求に対し、今行うべきか、見合う効果が期待できるか、何より市民の為に必要なものであるかを整理・精査し編成した。事業執行にあたっては職員の成すべき目標は同じであり、職員一丸となってそれぞれ創意工夫を凝らし、鋭意職務を全うしていく。

従来の事業、新規事業における補助金のあり方

**問** 歳出面は徹底した抑制としつつも、商工業振興事業は約6700万円もの増額となっている。他団体との共同で圧縮は可能であり、大阪・関西万博への出展など無用と考えている。交流とにぎわいあるまちづくりを行う上で、どう吟味し検討されたか伺う。

**答** 令和7年度新規事業の一つである店舗魅力アップ改修事業費補助金6500万円は、市内事業者の店舗改修に要する経費の一部を支援するもので、日頃から要望をいただいており、国の交付金を活用できるタイミングで事業化を図ったものである。

新未来21

宮下 知朗



持続的な発展を見据えた行政運営の方向性

**問** 安定的な財源確保と将来負担軽減は持続的な発展に欠かせない視点と考える。人口減少や少子高齢化の進行や老朽化する公共施設の改修更新が控えており、厳しい状況が想定されるなか、財源確保と市債の抑制にどう努めていくのか。

**答** 三島駅南口東街区再開発事業をはじめ移住定住、観光、企業誘致などの施策をバランスよく推進し、自主財源の増加につなげていく。市債については、適性を判断しつつ国や県の補助制度を最大限活用する中で、できる限り起債額を減少させるよう鋭意努めていく。

歳を重ねても自分らしく安心して暮らせる体制整備

**問** いつまでも健康で元気に暮らしたいとの思いは誰もが持つ普遍的な願いである。年齢を重ね誰かの手を借りなければ、日常生活を送ることが難しくなったとしても、住み慣れた地域で自分らしく暮らせる体制づくりにどう取り組むのか。

**答** 第9期介護保険事業計画において、地域密着型サービスである認知症対応型生活介護と看護小規模多機能型居宅介護の2施設を整備予定である。要支援・要介護となつた場合でも、住み慣れた地域でサービスを受けられるよう、サービス提供体制を整えていく。

激甚化・頻発化する自然災害に対する備えの強化

**問** 安心安全に暮らすためには激甚化・頻発化する自然災害への備えも忘れてはならない。昨年は大雨の影響により市内各所で浸水被害が発生したが、大雨等の水害から市民の生命・財産を守るため、どのように対策を講じていくのか。

**答** 徳倉谷戸川等の河川整備を引き続き実施するとともに、三島駅北口等の浸水箇所では、流域等の調査を行い有効な対策を検討する。加えて、都市下水路においては、竹ノ下ポンプ場の設備改築を実施するとともに、徳倉都市下水路でも浸水原因の解析に取り組む。

新風会

横山 雅人



未来につなぐ人材を確保するための少子化対策

**問** 2024年の三島市の出生者数は518人。10年前と比較して324人減少した。少子化は政府の想定より15年速いペースで進んでいて深刻な問題である。本市の少子化対策を伺う。

**答** 令和7年度には少子化対策の専門部署を設置し、これまで市では実施してこなかった若者の出合いの場の提供事業やライフデザインセミナーの実施、同窓会開催事業費補助金事業等を、各方面の皆様の見解を伺い、民間団体とも連携する中で進めていきたい。

三島市の農業の課題における対策

**問** 令和の米騒動と言われる米問題、野菜の価格高騰等で市民の家計が逼迫している。農業を取り巻く課題には高齢化や人手不足、耕作放棄地の増加、環境問題、国際競争などがある。本市の農業の課題についての対策を伺う。

**答** 国の制度を活用した新規就農者の確保・育成の推進、三島産野菜の魅力発信によるファンを増やす取り組みのほか、老朽化した農業用施設の整備など、県やJAなどと連携を図り、ハード・ソフトの両面から農家をサポートし、本市の農業の持続的な発展に繋げていく。

長伏公園整備計画の全体像は

**問** 長伏プールの解体工事も終わり、第1期工事として大型複合遊具の整備が予定されている。長伏公園整備計画の全体像を伺う。

**答** 「若い世代から選ばれる楽しい街のシンボル」となる都市公園を目指す。今後策定する整備構想を基に児童公園の刷新、にぎわいを生み出せる施設、健康増進を図る施設、若者が楽しめる施設等について、令和8年度以降の早期に三島の魅力が詰まった空間整備を進めていく。